# 南北海道連携中枢都市圏ビジョン（素案）の概要

令和８年（2026年）11月
企画部国際・地域交流課

## １．ビジョンの概要

| ビジョンについて | |
|---|---|
| **圏域名称** | 南北海道連携中枢都市圏 |
| **ビジョン名称** | 南北海道連携中枢都市圏ビジョン |
| **連携中枢都市** | 函館市 |
| **構成市町** | 渡島および檜山管内２市１６町<br>（函館市，北斗市，松前町，福島町，知内町，木古内町，七飯町，鹿部町，森町，八雲町，長万部町，江差町，上ノ国町，厚沢部町，乙部町，奥尻町，今金町，せたな町） |
| **取組期間** | 令和9年(2027年）4月1日<br>～令和14年(2032年)3月31日 |
| **策定の趣旨** | 進行する人口減少・少子高齢化に対応するため，「南北海道定住自立圏」の連携をさらに強化し，活力ある社会経済を維持するための拠点として連携中枢都市圏を形成する。 |

## ２．圏域の現状

| 圏域の現状と主な課題 | |
|---|---|
| **人口・社会動態** | ・人口減少と高齢化が進行<br>・社人研（令和5年推計）によると，令和2年(2020年)413,767人が，令和32年(2050年)には238,638人に減少する見込み<br>・若年層の圏域外流出や自然減が顕著 |
| **産業・経済** | ・1次・2次産業の割合が北海道全体と比較してやや高い。<br>・農林水産業では担い手の高齢化や主要魚種の漁獲低迷が課題となる一方，洋上風力発電などのGX推進や広域観光（年間宿泊客延数1,000万人泊）の発展可能性を有している。 |
| **都市機能・医療** | ・中核市である函館市に高度医療，高等教育，行政・商業機能が集積<br>・周辺地域救急搬送体制の維持や，地域による医師偏在の解消が求められる。 |
| **交通・インフラ** | ・新幹線，空港，港湾，高規格道路等の広域交通網を有する。<br>・一方，地方部の公共交通の維持が厳しさを増しており，デマンド交通等の活用や効率的な交通ネットワーク構築が必要とされている。 |

## ３．圏域の中長期的な将来像

**圏域の将来像**

*訪れたい，働きたい，住みたい　南北海道*
*～世界から選ばれ，安心して暮らせる地域を目指して～*

・各市町の魅力・可能性を掛け合わせ，多様な資源の価値を向上
・圏域全体の暮らしと持続可能な経済の実現
・函館市をヒト・モノ・産業が集積する拠点として強化

**人口の将来展望**

| 区分 | 圏域内人口 | 高齢化率 |
|---|---|---|
| 平成22年(2010年)　国勢調査 | 469,865人 | 28.1% |
| 平成27年(2015年)　国勢調査 | 442,668人 | 32.8% |
| 令和２年(2020年)　国勢調査 | 413,767人 | 36.6% |
| 令和７年(2025年)　国勢調査 | 378,168人 | 38.4% |
| **令和22年(2040年)　【目標】** | **320,000人** | **40.0%** |

## ４．具体的取組

### ア　圏域全体の経済成長のけん引

1．GXの推進
2．GX関連人材の育成支援等
3．地域におけるデジタル人材の育成
4．広域観光の推進
5．外国人観光客受入体制の整備

### イ　高次の都市機能の集積・強化

6．高度で幅広い知識や技術を有する看護師の育成に向けた取組み
7．看護師の派遣
8．函館港における物流拠点の整備
9．地域を支える人材の育成・確保

### ウ　圏域全体の生活関連機能サービスの向上

10．夜間急病センターの運営支援
11．ドクターヘリの運航支援
12．二次救急医療体制の維持・確保
13．脳疾患救急搬送体制の運営支援
14．医療情報共有化の推進
15．救急救命士病院実習の実施
16．理学療法士および作業療法士の養成支援
17．医療・介護連携の推進
18．障害者地域生活支援事業の推進
19．文化・スポーツ施設の相互利用の推進
20．販路開拓支援
21．創業支援の推進
22．先進技術の開発・利用促進および高度技術の普及支援
23．第三セクター鉄道への支援
24．生活バス路線の維持・確保
25．JR函館本線沿線の地域公共交通の維持・確保
26．交通インフラの整備に係る期成会活動の促進
27．国際交流・多文化共生の推進
28．移住・定住の促進
29．消費生活相談の広域的対応
30．職員研修に係る情報共有および合同研修の実施
31．高等教育機関との連携による地域マネジメント能力の向上
32．AI・DXの推進等による行政運営の効率化